

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|------------------|
| 事業所番号 | 3870105396 |
| 法人名 | 有限会社 トータルケア 果の実 |
| 事業所名 | グループホームこころ今出 |
| 所在地 | 松山市西垣生町1607-1 |
| 自己評価作成日 | 平成 28 年 1 月 16 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 松山市持田町三丁目8番15号 |
| 訪問調査日 | 平成 28 年 2 月 4 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、基本理念「信頼」「和」「安心」を基とした関係づくりに努めています。生活を共する事となった利用者様達とのご縁を大切に、家庭にいる時と同じように心地よいものとなるよう、利用者様に寄り添った支援ができるよう努めています。その中で、どのように日中を過ごしていくか、に取り組んでいます。ラジオ体操や口腔体操、個別のリハビリ、レクリエーション等で身体を動かし、一日の生活リズムを整えていき、清掃活動、家事などで、役割を持ったり社会とのつながりが持てる様に努めています。また、外出行事や散歩、個別での外出、テラス等も活用し、季節を感じてゆっくり楽しんで頂いたり、気分転換等できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は川沿いの住宅に囲まれた木造2階建ての建物で、1階の共用空間と2階の居室とを、利用者はエレベーターや階段を利用して自由に行き来している。管理者と職員は、理念である「信頼、和、安心」をもとに利用者の暮らしを支えており、利用者は穏やかに日々の生活を送っている。地域の情報を得て行事に参加したり、近隣の幼稚園との交流や、事業所周辺の清掃活動を行い、地域との交流に積極的に取り組んでいる。職員の研修や指導体制についても法人として確立され、事業所内外の勉強会への参加の機会も豊富である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームこころ今出

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

福増 美紀

評価完了日

平成 28 年 1 月 16 日

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------|------|--|---|--|
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | <p>(自己評価) 「信頼」「和」「安心」の基本理念を実践するための行動目標を定め、事業所内の見えやすい場所に掲示し、毎朝、勤務職員が唱和する事で理念の共有に努めている。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作られた「信頼、和、安心」という理念を継続して掲げている。理念と行動目標は各階のよく見える場所に掲示しており、理念について職員間で話し合うことはないが、毎朝、唱和して実践につなげている。新人職員に対しては入職時に理念の趣旨を説明し共有している。</p> | <p>理念を踏まえた行動目標について、職員間で話し合いの機会を持ち、振り返りをしながら、新たな行動目標を作成して、利用者の日々の暮らしを支えられるように期待したい。</p> |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | <p>(自己評価) 通勤時や毎日の散歩時などに、地域の方々とあいさつ重ね、コミュニケーションを取っている。「プチ美化運動」で施設周辺の清掃活動を行い、地域を少しでもきれいに出来る様努めている。地域の行事である、神社の夏祭り、地方祭、文化祭、幼稚園の行事等に参加し、当施設を知って頂ける様努めている。</p> <p>(外部評価) 集会所のパンフレットや近隣に住む職員から情報を得て地域行事に参加し、地域との交流に努めている。近所の方が野菜等持って来てくれることもある。事業所周辺の清掃活動を行い「プチ美化運動」として積極的に地域に貢献している。ボランティアの受入れや、近隣の幼稚園の行事にも参加している。</p> | <p>利用者が生き生きと暮らしていくためには、地域とのつながりが重要であり、地域の理解を得て、地域とのかかわりをさらに深め、交流を充実させていくことを期待したい。</p> |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価) 松山市認知症高齢者見守り・SOSネットワークの協力機関に登録し、自宅等で生活されている地域の認知症高齢者を支援している。</p> | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|---|-------------------------------|
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている | (自己評価) 資料を作成し、細かい事業報告を行い、ご家族・外部の方々に事業所の現状を理解して頂いている。意見交換を行い、率直な意見や要望を頂き、事業所のサービスの質の向上に繋げている。 | |
| | | | (外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、市職員及び地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1回開催している。会議に合わせて利用者と面会する家族もおられ、遠方から参加される家族もいる。会議では、入居者情報及び活動報告、ヒヤリハット、事故報告、勉強会等を行っている。参加できない家族の方には、議事録を郵送している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる | (自己評価) 運営推進会議に出席して頂き、ヒヤリハット・事故報告書・認知症行動による特別報告書をもとに、現場での実情を報告し、直面している課題解決に向けて、事業所の取組みを説明しご意見頂いている。 | |
| | | | (外部評価) 運営推進会議において事業所の運営状況や事故報告等を伝え、助言を受けている。また、制度の改正時や事業所で疑問点等がある場合には、その都度相談をしている。地域包括支援センターが開催する連絡会議にも毎回出席し、連携を図っている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価) 事業所で身体拘束に関するの基本理念・行動指針を定め事業所内に掲示している。マニュアルも作成し、全職員に周知徹底し、意識の向上にも努めている。 | |
| | | | (外部評価) マニュアルを作成し、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。月1回開催しているミーティングで、身体拘束について話し合いの機会を持ち、利用者の安全を確保し自由な暮らしを支援するためのアイデアを出し、ベット下にマットやセンサー等利用者の状態に合わせた対応をしている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|--|-------------------------------|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 研修に参加し知識を深め、職員同士が話し合いの場で意見交換を行い、虐待防止に努めている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 研修等に参加し、制度の理解と活用法など理解を深め、必要である場合は活用できるように努めている。一名、成年後見制度を利用されている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 入居される場合は、事前に見学に来て頂き、事業所の雰囲気や設備等をパンフレット等を用いて説明している。納得された上で入居契約を締結している。改定の際は、運営推進会議等で説明を行い、本人やご家族の理解を頂いて、同意書を頂いている。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 事業所に意見箱を設置している。また、日頃から状態報告で連絡を取ったり、面会時にも状態報告とご家族様からのご意見を伺うようにしており、話しやすい雰囲気が持てる様に努めている。家族会では、事前にアンケートをお送りし、事業所への意見等を求め、サービスの質の向上に繋げている。 | |
| | | | (外部評価) 家族の意見や要望は面会時や運営推進会議、年に1回開催する家族会で確認している。家族会では事前にアンケート調査を実施して話し合いの場を設けている。県外在住の家族も頻りに面会に来ているので話しを持つようにしている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-----------------------------|----------|--|--|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | <p>(自己評価) 毎月ミーティングを開き、色々な意見を出し合い、職員全員で話し合っている。管理者以外にリーダーを配置し、職員が意見を出しやすい様に努めている。ミーティングで出た意見は、運営者が参加する幹部会に持ち寄って話し合っている。また、日頃の些細な意見や要望は迅速に対応している。</p> <p>(外部評価) 職員全員が参加して月1回ミーティングを開催し、運営に関する意見を出し合っている。法人全体で2か月に1回勉強会を行い、外部講師による研修を行うなど職員のスキルアップを図っている。管理者は年2回、個人面談を行い職員との意思疎通を図っている。また、事業所では職員が希望する研修への参加を奨励し、資格取得も積極的に支援している。</p> | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | <p>(自己評価) 勤務希望や夜勤回数等を確認し、職員一人一人の得意、不得意分野も考慮して、働きやすい環境づくりに努めている。年二回の賞与は日頃の勤務態度を評価し反映させている。資格手当等もありステップアップを目指している職員も多い。年二回の健康診断・インフルエンザ予防接種も実施し、職員の健康管理に努めている。</p> | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | <p>(自己評価) 各職員が研修内容を選び外部研修に参加し、知識や技術の習得に努めている。外部研修内容は資料にて他職員に伝達研修され、内容によってはミーティングの時に説明している。また二か月に一回法人全体で勉強会を開催している。各職員が一年間の目標を立て、達成できるように努めている。毎朝申送り時に一問一答を行っている。</p> | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | <p>(自己評価) 地域包括支援センターが主催する事業所連絡会に参加し、情報交換を行っている。また、管理者は外部研修等で名刺交換など行い、情報交換・施設見学など行っている。</p> | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | <p>(自己評価) 入居されてすぐは、環境に慣れず気持ちが落ち着かない事が多いと思われるので、気持ちが少しでも落ち着く様な、生活で使い慣れた家具等を持ち込んで頂き、安らぐ居室作りに努めている。事前にご家族等から得た情報を本人との会話のきっかけにして、話しやすい雰囲気作りに努めている。会話の中で本人の不安や要望を把握できるように努めている。</p> | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|--|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) 入居される前の面談にて、本人の状況、ご家族の本人への介護の状況、ご家族の状況・関係性などお伺いし、不安な事や要望をお聞きし、出来る限りの対応をしていける様に努めている。入居されてからは、本人の状態報告等をこまめに行い、信頼関係が築ける様努めている。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) ご家族や居宅介護支援事業所等から得た情報をきちんと整理し、ある程度の予測を立てて、入居された時にきちんとした対応がとれる様に努めている。また、入居されたことで本人の活動範囲が狭くならない様に努めている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) 入居者には何らかの役割を持って生活して頂ける様に努めている。職員は引き立て役として関わり、入居者に主役となって頂ける様に努めている。入居者同士が気に掛け合い、気遣い合うこともある。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 行事と一緒に参加して頂いたり、買い物や散歩と一緒に出かけたりし、本人と楽しい時間を過ごされている。また、定期的な受診に付き添って下さったり、美容室に連れて行って下さるご家族もおられる。本人の事でご家族の協力を得たいことについては、相談させて頂いている。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) 兄弟や孫、以前仲が良かった知人が時々面会に来て下さっている。運営推進会議でご家族に呼びかけ、馴染みの場所や思い出の場所などを教えて頂ける様に努めている。また、毎月こころ便りを発行し、本人の様子をお伝えし、大切な人との関係が途切れない様に努めている。 (外部評価) これまでに培ってきた人間関係や習慣等を利用者や家族から聞き取り、フェイスシートにまとめ共有している。入居後も会話をしながら、さらなる把握に努めている。また、近所の幼馴染や仕事の同僚等が家族と一緒に事業所を訪れることもある。馴染みの場所が遠方の場合、家族の付き添いで訪問したりしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|---|-------------------------------|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 入居者のリビングの席はいつも同じなので、テーブルで馴染みの関係が出来ている。利用者同士でも合う合わないはある様子だが、男性が女性を助け、女性が男性を助ける場面も見られ、また隣の席になった御縁で気に掛けてお手伝いしようとする人、話好きの方には聞き上手な方が親しくされている様子もみられる。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 利用契約終了後も気軽に相談して頂ける様お伝えしている。本人に関する記録はきちんと保管しており、要望があればいつでも情報提供が出来るようにしている。 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) ケアプランを作成する時は、本人やご家族にご意向を確認している。日頃の面会時や会話や様子等から本人の情報を収集し、その人の思いは何か職員は関心を持ち、意見を出し合い取り組んでいくよう努めている。 (外部評価) 利用者からは日常生活の中で、特に1対1になる入浴時や、外出時の車中等で率直な希望や意向を聞くことができています。出された意見は、申し送りをして職員間で情報を共有し、話し合いの機会を持ち検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 入居される時には、居宅介護支援事業所等から情報を頂いて本人の状況の把握に努めている。また、入居してからは本人やご家族からこれまでの生活歴等をお伺いして、今までの生活スタイル等をなるべく継続出来るように努めている。また、気になった事は面会時にご家族にお話を伺っている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) 一日のスケジュールが決まっている部分もあるが、そのスケジュールが暮らしの流れの一つとなる様、声掛けなど工夫している。人によっては一人でテレビを観る時間を持たれたり、居室で本を読まれたり、横になって休まれたりされている。リビングでレクリエーションをしていると少数人数が段々と参加者が増えて来たりもする。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価) 計画作成時には、本人・ご家族にご意向を確認している。普段にも面会時や会話の中からお意向をくみ取って行けるよう努めている。ケアカンファレンスも開き、本人の心身の状態を確認し話し合っている。週に1回ケアプラン実施確認表でサービス提供状況をチェックし、モニタリングで実施状況を確認し今後の計画に活かしている。 | |
| | | | (外部評価) 利用者や家族等の意向を踏まえて、出された意見や日頃の希望を取り入れながらケアカンファレンスを行い、計画作成担当者が介護計画を作成している。週に1回介護計画の実践状況を確認するとともに、定期的にモニタリングを実施して、介護計画の見直しを行っている。介護計画は家族の面会時に説明し、同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | (自己評価) 利用者の様子を朝夕の申送りで共有し、気づきのノートを作り活用している。「一日の様子」に日中・夜間と分けて色々な情報を記録している。ヒヤリハットや、事故報告書・認知症による特別報告書を活用し、月に一理事例検討会を行い、介護計画の見直しにも活用し、再発防止やより良いケアが提供できるように意識を高めている。 | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | (自己評価) 本人やご家族との会話の中から、行きたい場所や、馴染みの場所・思い出の場所など聞き取り、個別に外出できる機会を持っている。 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | (自己評価) 地域のお祭りや行事等に参加したり、施設周辺の散歩時などに挨拶をして顔見知りとなり、施設利用者を理解して頂ける様努めている。地域の散髪屋さんやパン屋さんに来て頂いたり、郵便局やスーパーに行き自分で買い物を買ったりしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している | (自己評価) 基本的には協力医療機関の往診で対応している。専門医の受診が必要な場合は、ご家族をお願いしているが、難しい場合には職員が付き添って受診している。緊急の場合の受診等もご家族と連絡を取りながら職員が柔軟に対応している。本人の様子がいつもと違った場合には、主治医に連絡し、指示を仰ぎ連携に努めている。 (外部評価) 協力医の往診と週1回の訪問看護があるため、入居時にかかりつけ医の変更を希望する利用者が多い。また、泌尿器科や整形外科等専門外来に通院する利用者もあり、家族が付き添っているが、家族の付き添い困難な場合は、職員が同行している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | (自己評価) 他事業所の訪問看護ステーションと医療連携の契約を結んでいる。週に一回体調管理に来て頂いているが、困っている事など相談し、助言等を頂いている。入居者ごとに訪問看護時の記録を残し、情報の共有に努めている。 | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | (自己評価) 入院時には介護サマリーや主治医からの紹介状を書いて頂いて医療機関に情報を提供している。入院中は少しでも安心して頂ける様定期的に面会に行き、本人の状況の確認を行っている。ご家族や医療機関とも情報交換し、退院後事業所での生活が不安なく遅れる様に努めている。 | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | (自己評価) 入居される時に、終末期についての話をするが、ご家族にとって実感のわかない話となるので、本人の状態が変わった場合等にその都度、ご家族に確認をとる様に努めている。看取りに関しての研修には積極的に参加して知識を深めている。 (外部評価) 「重度化した場合の対応に係る指針」を作成しており、職員も理解している。協力医と訪問看護の医療体制が整備されている。これまでも利用者や家族の要望に応じて1名の看取りを行っている。入居時に看取りの意向を確認し、重度化した場合にはその都度説明を行って家族の同意を得ている。終末期には家族も寝泊りできる環境を整えている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|---|--|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) 応急手当の研修に参加し、職員全員に伝達研修している。緊急時対応マニュアルを作成しており、職員がいつでも確認できるようにしている。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) 日中の火災を想定しての避難訓練、夜間の火災を想定しての避難訓練は消防署の方を招いて指導して頂いている。地震と津波の発生を想定した防災訓練も行い避難経路の確認を行っている。事業所連絡会等で事業所同士の連携についても話し合いが行われている。いざという時の避難の為に、利用者引き継ぎカードを作っている。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て、昼夜間想定で避難訓練を実施している。法人の他の事業所からの応援が受けられる体制は整備されているが、避難訓練に地域の方が参加する機会はまだない。また、職員緊急連絡網が整備され、災害時の備蓄品も整備されている。 | 災害時の職員連絡網が整備されているが、実際に連絡網を使った訓練をしていないため、訓練の実施により連絡体制を再確認することを期待したい。また、災害時に地域住民との協力体制が得られるように、自主防災組織にも働きかけ、協力体制を築くことを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) 事業所で、プライバシー保護マニュアルを作成し、職員が確認できるようにしており、排泄介助や入浴介助等のケアにあっている。また、個人情報保護に関する基本方針を作成し、個人情報の取り扱いにも併せて十分配慮している。 (外部評価) 職員は日常のケアや声かけなどあらゆる場面で、利用者の不快にならないよう気を付けて、声のトーンや言葉遣い等に注意して支援している。事業所はプライバシー保護マニュアルを作成しており、職員間の話し合いや研修を行い、個人情報保護に関する取り扱いに十分な配慮をしている。排泄や入浴時へのプライバシーの配慮もされている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 日頃のコミュニケーションの中でご意向を確認できるように努めている。その時により、思いや希望の変化も見られるが、柔軟に対応し自己決定に応えられる様に努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) ある程度の一日の流れはあるが、その日の体調を考慮して本人のペースに合わせて過ごせるよう努めている。日中はしっかりと体を動かして頂き、夜間はぐっすり眠れるよう、生活リズムを整えている。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) 月に一回、近くの散髪屋に来て頂いて散髪を行っている。毎日の整髪、髭剃りは声かけにより行っている。爪切りは声かけし介助で定期的に行っている。外出する際には、男性も女性もいつもよりすこしお洒落をして出掛けられている。 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 簡単な料理の下ごしらえや、おやつ作りなどは職員と一緒にしている。旬の食材を畑まで取りに行くこともあり、目で見て触って季節を感じて頂いている。また季節の行事に合わせた食事作りにも努めている。食事では介助が必要になる方も、おやつは自力でしっかり食べられている。下膳や食器洗いも協力して下さっている。 (外部評価) 食材は週2回購入し、調理担当の職員が献立を決めている。畑で採れた新鮮な野菜や、釣りたての魚等を取り入れながら調理している。利用者は下膳や食器洗いなどの手伝いをしていいる。利用者の体調に合わせて、食事形態を随時変更している。利用者は料理の本を見ながら食べたいものの希望を出したり、外食を取り入れるなど食事を楽しめるよう工夫している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 毎食摂取量を記録し、水分量も一回一回記録を重ね、一日のトータル摂取量をまとめて記録している。記録を参考にし本人の様子を見て、食事・水分を勧めている。アセスメントを行い、本人に合った食事形態で提供している。体調を崩している場合には、食事形態を変更したり、主治医に相談し対応している。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っている。本人の状態によっては、声かけを行い介助させて頂いている。夜間は義歯を預かり、義歯洗浄剤で洗浄している。また、口腔機能が維持できるように毎日昼食前には口腔体操を行っている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) 日中は排泄チェック表を活用し、一人一人に合った排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を促している。トイレに座る事ができるように、手すりにつかまっの立ち上がりや、立位保持訓練など本人に合わせた運動を毎日行っている。また、声掛けや介助をする時には、プライバシーや恥ずかしい思いをされない様に、十分配慮するよう努めている。 | |
| | | | (外部評価) 職員の声かけや誘導により、日中はすべての利用者がトイレで排泄している。夜間おむつの使用者は2名で、他の利用者は状態に応じてセンサーを付けて、ベッドからの移動が安全にできるように配慮し、一人ひとりに合った排泄支援が行われている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) 毎食時、おやつ時、入浴後にはしっかり水分摂取して頂ける様努めている。食事はバランスを考えながら、食物繊維が多く摂れるメニューを考えている。毎日、ラジオ体操・個別の運動をする時間を設けている。 | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) 入浴の時間帯は決まっているが、前もってお知らせする事でゆっくりとした気分で入浴できるよう努めている。職員と一対一の介助なので、お喋りをしたり、歌を歌ったり、お一人でゆっくり浸かられたりし、リラックスして入浴して頂いている。入浴剤を使用したり、季節に合わせたゆず湯なども行っている。 | |
| | | | (外部評価) 入浴は3日に1回入れるように支援している。入浴の苦手な利用者には、無理強いすることなく順番を変更したり、職員が交代で声かけを行い入浴を促している。また、入浴剤を使用したり季節に合わせてゆず湯にしたり、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) リビングには和室もあり、すこし横になり休まれる方や、体調が悪い場合に居室か和室で休んで頂くことがある。日中はソファでテレビを観たり、日向ぼっこをしながら休まれたりし過ごされている。季節の良い時期になると、ウッドデッキに出て日光浴をしながらウトウト休まれる事もある。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 服用している薬の説明書は、個人ファイルに保存している。説明書を見て、入居者の服用している薬の把握に努めている。薬の変更があった場合には、申送りや連絡ノートを活用して情報を共有し、本人の状態変化等の観察を行い、主治医に報告している。薬は職員が管理し、間違いのない服用に努めている。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 利用者の気分や体調に合わせ、負担にならない程度にそれぞれ役割が持てる様努めている。料理が好きな方、音楽が好きな方、掃除が好きな方、風船バレーが好きな方、何かするのはイヤだが隣の席の方は助けてあげようと思う方など、得意な事好きな事等を生かして、暮らしに楽しみや張り合いが持て頂ける様努めている。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) 月に一回ずつ個別で外出できるように努めている。運営推進会議等で家族にも声掛けし、本人が行きたい所ゆかりのある所など教えて頂いたり、提案させて頂いたりして、戸外に出てゆっくりと気分転換できるようにしている。天気の良い日には、近所を散歩したり散策する事もある。また、ご家族と一緒に外出させることもある。 (外部評価) 天気のいい日は、近隣の川の鯉を見に行ったり、月1回は遠出を計画し、季節に応じて、道の駅やぶどう狩り、花見などに外出するようにしている。また、利用者の希望に応じてスーパーに買い物に行ったり、喫茶でコーヒーやパンを食べたり、個別の外出支援も行っている。運営推進会議後に家族と一緒に外出される利用者もいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 買い物等の支払いは、一時的に事業所が立て替えて、後で請求している。本人が少しのお小遣いを持っておられる方もおり、個別での外出時などに自分のお財布から支払われる事もある。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 状態よってご家族に連絡している。本人が電話でお話をする事で安心されている。ご家族からの電話もある。定期的には手紙を書いてくださるご家族もおられる。県外のご家族からは、母の日や父の日、お誕生日等にプレゼントを送って頂く事もある。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | <p>(自己評価) 南側は全面窓になっており、明るい自然光が差し込んでいる。ウッドデッキもあり、プランターで季節の花を育てている。BGMに民謡・演歌・童謡・歌謡曲・映画音楽など用意したり、観葉植物や季節の植物で緑を取り入れたりし、心地よく過ごせるように工夫している。共用空間は毎日掃除を行い清潔を保ち、見えやすい所に温湿度計を設置し冬は加湿器を使用して温度湿度調整に努めている。</p> <p>(外部評価) 玄関を入ると1階のリビングルームを見渡すことができ、食卓テーブルと木製の椅子は座面が回転し、利用者の状態に合わせて快適に使用することができるようになっている。季節を感じられるよう掲示物や写真が飾られ、14畳の畳コーナーは広く、日中利用者が横になってくつろぐことができる。感染症予防のために加湿器を設置している。2階へはエレベーターと階段があり、利用者は自由に行き来できるようになっている。</p> | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | <p>(自己評価) 一人掛けチェアや、2階のソファ、テレビ前のソファ、玄関前の椅子、和室の畳、ウッドデッキ等で一人でゆっくり過ごされたり、仲のいい方同士でテレビを観たりし過ごされている。</p> | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | <p>(自己評価) 入居される際には、使い慣れた馴染みの物を持って来て頂ける様に説明している。ご家族との思い出の写真など飾られている。出窓には、観葉植物も置いてあり、落ち着いた環境づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッド、エアコン、クローゼット、換気扇が備え付けられている。転倒のリスクが高い利用者には、ベッドの高さの調節やベッド下にマットやセンサーを設置している。壁には写真や年賀状等が飾られている。利用者や家族と相談しながら、安心して居心地よく過ごせる居室づくりに努めている。</p> | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | <p>(自己評価) 室外では歩行者を使用される利用者も、室内では手すりを利用しての移動が可能となっている。一階と二階の移動はエレベーターを利用するか、階段を手すりを持っての移動が可能となっている。リビングでは、どこからも見えやすい位置に時計を設置している。トイレや浴室には看板を付けて場所が分かるようにしている。</p> | |